# 課題意識

| 優先順位 | 質問 | ポイント | 肯定：否定：わからない |
|---|---|---|---|
| 1 | ユニバーサルデザインの視点から、授業や校内環境は整備されている。 ※ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）を | 30 | 42% 12% 39% |
| 2 | 必要な進路指導の情報が生徒や保護者に伝わっている。 | 34 | 57% 23% 19% |
| 3 | むつみ学級と他学級の相互理解や交流は、授業や行事の中で行われている | 37 | 41% 5% 47% |
| 4 | 障がい者に関する国の政策や特別支援教育に関する啓発活動は、適切に行われている。 | 39 | 43% 4% 46% |
| 5 | 特別に支援の必要な生徒など一人ひとりを大切にした指導を行っている。 | 48 | 57% 9% 34% |
| 6 | 家庭で、予習または復習など学習習慣が付くような手立てをとっている。 | 48 | 71% 22% 7% |

# 具体的な手立て

| 優先順位 | 質問 | 具体的な手立て |
|---|---|---|
| 1 | ユニバーサルデザインの視点から、授業や校内環境は整備されている。 | ● 日本語が苦手な生徒にプリントやテストにルビを振る。<br>●専門家の意見をきいて取り入れる。<br>●ユニバーサルデザインという言葉を浸透するために情報を発信して見える形にする。<br>●視覚的に伝えることで効果が上がるので、教室1台の大型モニタを配備している。<br>●一人ひとりタブレットが支給されているので、今後も授業や学校生活に活用していく。<br>●授業内での言葉遣い（呼名法）など、国籍や性別によっての差が出ないように心がける。<br>●一人１台タブレットを貸し出し、言葉の壁による学習の弊害が出ないよう努める。<br>●外国籍の生徒には定期テストにおいて、出題内容を理解するため問題にルビをふるなどの配慮する。<br>●アイチョークを活用する。<br>●コロナ禍の今、学校の様子を伝えるために、学校便りやＨＰ、学級だより、保護者会などを使って、保護者に発信することを継続していく。<br>●ノートをとるのに時間がかかる生徒には、板書を写真に撮ったり、プリントに記入したりするできるようにする。 |
| 2 | 必要な進路指導の情報が生徒や保護者に伝わっている。 | ●こまかな資料を提供できるように、進路説明会を設けている。<br>●学年だよりでも発信しているが、進路だよりやホームページ、メールなども活用する。<br>●進路についての保護者との情報共有は、その日のうちに行う。<br>●学年に応じた進路情報を提供していく。<br>●生徒に総合的な学習内で中学卒業後の進路についての紹介やその現実を知る学習を継続する。<br>●保護者のニーズに対応できるように情報発信を行っていく。<br>●３年生保護者向けの進路説明会を必要に応じ２回行う。また、１・２年生の保護者も希望すれば参加できるようする。 |
| 3 | むつみ学級と他学級の相互理解や交流は、授業や行事の中で行われている | ●親学級での居場所は重要なので、今後とも交流を継続していく。<br>●行事などで保護者の目に触れる機会を設ける。<br>●交流授業への参加や、休み時間を交流学級で過ごすのを継続していく。<br>●特別支援教育に対して情報発信していく。<br>●特別支援学級の生徒が授業に参加する際に、タブレット等を上手く利用し黒板を写真に撮るなどして板書の補助とする。<br>●特別支援学級の生徒が、行事を親学級と一緒に活動することを継続していく。<br>●普段の学習において、可能な限り、親学級での通常授業を受け、苦手とする教科の基礎の学習を特別支援学級で行うのを継続していく。<br>●一緒にいる時間を増やすことで相互理解を図る。<br>●交流学級での授業で、教えあいなどを行う。 |
| 4 | 障がい者に関する国の政策や特別支援教育に関する啓発活動は、適切に行われている。 | ●募金活動やボランティア活動を積極的に行う。<br>●特別支援教育に対しての適切な情報を発信していく。<br>●道徳の授業や、人権集会において、常に人権、差別について考える場を設け、特別な支援が必要な生徒への理解を継続的に図る。<br>●国語、社会といった教科内の教材において関連するものの学習の際には、その知識を深められるような学習を行う。<br>●人権週間などの取り組みを保護者に発信する。<br>●特別支援コーディネーターを中心に、個別支援が必要な生徒とその手立てについて職員間で共通理解を図る。 |
| 5 | 特別に支援の必要な生徒など一人ひとりを大切にした指導を行っている。 | ●こまめに職員で情報を共有しながら、その生徒に合った支援を行っていく。<br>●タブレットを活用して、よりきめ細かな指導を行う。<br>●特別支援学級での専門的な個別指導と、交流授業での特別な配慮に基づいた個別指導を行う。<br>●特別支援教育に対しての適切な情報を発信していく。<br>●むつみ学級の担任を中心に、学習指導、学校生活や進路指導などに丁寧に取り組んでいく。<br>●行事終了後に行う「ありがとうメッセージ」書きや、学年だよりなどで、常に「集団の中の自分」「集団のあるべき姿」を考えさせるなど、差別や偏りなく人の話を聞いたり、接したりすることの大切さを今後も継続して訴えていく。<br>●きめ細かな机間指導、授業後の声かけを継続して行う。<br>●保護者と特別支援学級担任をつなぐ連絡ノートの活用を継続する。<br>●合理的配慮の要望に沿って支援をしていく。<br>●保護者との連絡を密に取り、どのような支援が必要なのかを情報交換し、相互理解する。<br>●一人一人のできることを、少しでも伸ばせるように、自信を持って行動に移せるような声かけをする。 |
| 6 | 家庭で、予習または復習など学習習慣が付くような手立てをとっている。 | ●タブレットを有効活用していく。<br>●毎日、家庭学習をチェックをする見守り活動の継続。<br>●宿題の出し方を工夫する。<br>●家庭学習ノート、週末プリントなど、日常的に継続した家庭学習に取り組む。<br>●学年フロアに家庭学習コーナーを設け、学習プリントを提供し、家庭学習の支援する。<br>●学年学習委員会を中心に目標を明確にして他者と学び合うことを目的とした班内家庭学習を継続して行う。<br>●毎日家庭学習ノートや宿題の点検をして、継続的に学習習慣の形成に努める。<br>●おすすめの学習法を紹介し継続してやるように支援する。 |